ビーズ作りで明日への力をはぐくむ

平日の昼下がり。真っ青な空の下、キラキラ光るカラフルなビーズを手にする子どもたち。自分の好きな色を組み合わせ、一つ一つ、大切に大切に、糸に通していく。その表情は満面の笑みだ。

フィリピンの首都マニラから南東に300キロ。パイナップル畑が広がるのどかな田舎町ダエット。その一角にある保護施設「Halfway home」は、今日も明るい笑い声に包まれている。

しかしここに集まるのは、虐待などで心に傷を負った子どもたち。貧しい家庭で育ち、学校にも行けない―。そんな彼らのために、算数や英語の勉強、遊びを通じて生きる力をはぐくんでもらいたいと、スタッフたちは懸命に汗を流す。

その一人、青年海外協力隊の木村みのりさんが取り入れたのがビーズのアクセサリー作りだ。「自分ですべてできる子もいれば、そうでない子もいる。一人一人の能力に応じて、指導しています」。それまでベッドで一日中寝ていた子も、新しく熱中できることを見つけて、生き生きとした表情を見せるようになったという。

「自分の作ったモノを買ってくれる人がいると知って、自信がついたようです」と木村さん。技術だけでなく、整理整とん、仲間と協力し合う心なども学んでほしい―。そう願っている。

小さな子どもたちのかわいい自信作、ぜひ一度手にとってみてほしい。

一つ一つのビーズに思いを込めて、丁寧につなぎ合わせていく

★ビーズのアクセサリーを8人にプレゼント!→詳細は38ページへ